

「21世紀型コミュニケーション力の育成」研修モジュール

## C2 ブレインストーミング

一般財団法人 コンピュータ教育推進センター

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

これより「ブレインストーミングとKJ法」のワークショップを始めます。  
この時間を担当する〇〇〇〇です。  
よろしくお願いします。

「ブレインストーミングとKJ法」は、多くの教科で扱うことのできる思考法です。  
これから、実際に体験をしながらその方法を学んでいきましょう。

※ブレインストーミングとKJ法を分けて実施することも可能。

## ブレインストーミングとは

- 参加者全員で多数の意見やアイデアを出し合い、そこから新しい発想を生み出すための方法の一つ。
- A・F・オズボーン氏(アメリカ)が考案

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

まず、ブレインストーミングとはどんなものでしょうか？

参加者全員で多数の意見やアイデアを出し合い、そこから新しい発想を生み出すための方法の一つです。

アメリカ人のA・F・オズボーン氏が考案しました。

## ブレインストーミングとは

- 全員が参加
- 一人一人の意見を尊重
- アイディアを次につなげる



アクティビティの基本

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

ブレインストーミングは、  
・全員が参加すること  
・一人一人の意見を尊重すること  
・アイディアを次につなげること  
を基本としており、  
様々なアクティビティの基本とも言われています。

## ブレインストーミングの4原則

- ① アイデアの量にこだわる。  
「質より量」
- ② 批判をしない。  
「エーッ！」「違うよ」「冷笑」などはNG!
- ③ 独創的なアイデアを歓迎する。  
「自由奔放」「突拍子もない」はGood!
- ④ アイデアを融合させて改良する。  
必要に応じて進行役が助言

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

次に、ブレインストーミングの4原則について説明します。

一つ目は、アイデアの量にこだわることです。

つまり「質より量」ということになります。

二つ目は、批判をしないことです。

「エーッ！」「違うよ」「冷笑」などはNGとします。

三つ目は、独創的なアイデアを歓迎することです。

みんなと同じ意見ばかりでは新しいものは生み出せないの、「自由奔放」「突拍子もない」意見は重要です。

四つ目は、アイデアを融合させて改良することです。

それぞれのアイデアを合わせることでよりよいものになることがあります。

ただし、そのためには、進行役(ファシリテーター)の役割が重要になってきます。

# ブレインストーミングの 進め方を理解しよう

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

次に、ブレインストーミングの進め方を理解しましょう。

## ブレインストーミングの進め方

# ①具体的なテーマを与える

- × 地球環境を守るにはどうしたらよいか
- 私たちにできるエコ活動を考えよう

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

まず、具体的なテーマを与えることから始まります。  
その際には、「地球環境を守るにはどうしたらよいか」といったような漠然としたものより、「私たちにできるエコ活動を考えよう」といったような、具体的なものの方が深まります。

## ブレインストーミングの進め方

# ②グループを作る

- ・テーマによって、メンバーを考慮。  
Ex.同学年or異学年

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

次にグループを作ります。

たとえば、同学年がいいのか異学年がいいのかなど、テーマによって、メンバーを考慮するとよいでしょう。

## ブレインストーミングの進め方

### ③ グループファシリテータを決める

#### <心構え>

- 自由に話せる雰囲気作り
- テンポ良く進める
- まとめようとしなない(切り捨てない)

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

グループができれば、話し合いの進行役となるグループファシリテータを決めます。ファシリテーターは、

- ・自由に話せる雰囲気作り
- ・テンポ良く進める
- ・無理矢理まとめようとしなない、意見を切り捨てないことを心がけます。



## ブレインストーミングの進め方

### ④ 自分の意見を付箋紙 に書く

- キーワードで書く(短く)
- 1枚に一つ

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

グループの役割が決まったら、自分の意見を付箋紙に書いていきます。

・キーワードで書く(短く)

・1枚に一つ

書くようにします。

## ブレインストーミングの進め方

### ⑤ 順番に発表する

- 1回の発表でアイデア1つ
- 演説禁止(簡潔に)
- 発表した付箋紙を模造紙に貼る  
(無造作に並べてよい)

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

付箋紙にアイデアを書いたら、順番に発表していきます。  
に書いていきます。

- ・1回の発表でアイデアは1つだけ発表します  
似たような考えの人は続けて発表してもいいでしょう。
- ・演説は禁止です。簡潔に話すようにします。
- ・発表した付箋紙は模造紙に貼っていきます。  
ブレインストーミングでは、無造作に並べてよいです。

※KJ法をつなげる場合は、似たアイデアを近づけて貼ってもよいことを伝える。

それでは、  
ブレインストーミングを  
してみましょう。

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

それでは、実際にブレインストーミングを体験してみましょう。

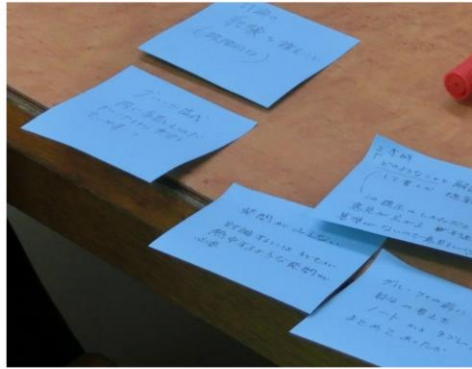
テーマは、  
「子どもたちに学校を  
好きにさせる方法」  
です。

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

それでは、実際にブレインストーミングを体験してみましょう。  
今日のテーマは、  
「子どもたちに学校を好きにさせる方法」  
です。

※参加者の実態や研修会の課題等に応じてテーマを決めてください。

# 自分の意見を付箋紙に 書きましょう。



時間は7分です。

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

自分の意見を書く時間は、7分です。  
では、始めてください。

# 発表しましょう

- 1回の発表でアイデア1つ
- 演説禁止(簡潔に)
- 発表した付箋紙を模造紙に貼る  
(無造作に並べてよい)

それでは発表してみましょう。  
留意点は先に説明した通りです。  
時間は15分です。

## ブレインストーミングに 期待される効果

- ①自分の考えがまとまる  
キーワードにする
- ②他の参加者の考えがわかる  
共通点と相違点を知る
- ③自分の考えの不足に気づく  
情報不足や先入観
- ④新しいアイデア(解決策)が生まれる

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

はい、時間になりました。

みなさん、いかがでしたか？

参加者全員で多数のアイデアを出し合い、そこから新しい発想がもてたでしょうか？  
ここで、ブレインストーミングに期待される効果についてまとめます。

・まず、付箋紙にキーワードを書く作業のなかで、自分の考えがまとまってことが感じられたでしょうか？

・次に、他の人のアイデアを聞くことで、共通点と相違点を知ることができたでしょうか？

・また、自分のアイデアを発表する活動のなかで、情報不足や先入観等、自分の考えの不足に気づくことがあったでしょうか？

・最後に、グループでの話し合いを通して、新しいアイデアあるいは解決策が生まれましたでしょうか？

※ブレインストーミングのみの場合は、ここで終了です。

最後のスライドに進んでください。

# 製作

## CEC

### 21世紀型コミュニケーション力の育成プロジェクト委員会

16

Copyright © 2013 Center for Educational Computing all rights reserved.

子どもたちへの教育活動の中や教職員研修、あるいは保護者懇談会等で、本日体験した「ブレインストーミングとKJ法」を効果的に活用し、効果的なコミュニケーションが行われることを期待しております。

以上でワークショップを終了いたします。  
ありがとうございました。